

■ 3年生ダンス発表会を実施しました。

9月6日(木)の3限目に、3年生女子が体育館に集まって、ダンス発表会を行いました。1学期中間考査以降に、週2回の体育の授業時間を使ってダンスの練習を続けてきました。4人から8人の6グループに分かれて、自分たちでグループ名、タイトル、楽曲選択、ダンスの構成などを考えて、繰り返し練習をしました。それぞれのグループが楽しく、元気にキラキラのダンスを披露しました。

6つのグループ名と【タイトル】、表現したい内容及び苦労したことは以下のとおりです。

○紙宿【グリスリーに襲われたら・・・♡】とにかく可愛く表現したい。立ち位置がぐるぐる変わるので、そのたびに5人のバランスをとるのが大変でした。そこで動画を撮り、一つひとつ見直して修正を繰り返してきました。

○チームサムギョプサル【I want you back】：可愛さを表現することにこだわりました。動きを覚えることに苦労しました。

○ご飯【Russian Roulette(Red Velvet)】：明るい曲調を生かして、楽しいところを表現したい。フォーメーション移動、ダンスのアレンジに苦労しました。ダンス経験者がいないので、覚えたり、教えたりすることが大変でした。

○J【Hello Hello】：snow manの楽曲「Hello Hello」は映画ハニーレモンソーダの主題歌です。夏らしくルンルンした気分で踊ります。構成にもこだわりました。キレの良さや細かい部分の動きにこだわりました。

○ビート Butter【ビートたけし×BTS「Butter」×TWICE「cheer up」】：みんながセンターに立っているところ、仲の良さ、ダンスの振りのかわいらしさを表現しました。フォーメーション、TWICEのダンスの振り分けに苦労しました。

○鼻たれまなか【マルマルモリモリ】：まなちゃんと福くんみたいに可愛く踊りたいです。フリを覚えるのに苦労しました。



■ ウォークフェスタを実施しました。

9月24日(金)に、郷土の豊かな自然と環境を肌で感じ、清掃活動を通して環境保全に協力し、クラス及び学年の親睦を図る伝統のウォークフェスタを実施しました。当日は抜けるような秋空が広がり、絶好のウォークフェスタ日和となりました。

3年生は人丸駅に集合し、棚田経由で千畳敷をめざして出発しました。行きの道は斜面を登る厳しい道でしたが、ゴミを拾いながら歩き、ゴミ袋はすぐにいっぱいとなりました。棚田から海へと素晴らしい景色を見ながら千畳敷に到着しました。その後、千畳敷で昼休憩。サッカーやテニス、アスレチックを楽しむ者、友人と語る者など様々に過ごしました。帰りは斜面を下り、長門古市駅に向かいました。平地に着くと、稲刈り前や後の色とりどりの田畑がきれいでした。

2年生は阿川駅に集合し、下関を代表する観光スポットの角島へ向けて出発しました。青空が広がるさわやかな秋晴れの駅中、軽快に歩きました。角島大橋は安全のためマイクロバスで渡り、その後きつい上り坂が続きましたが、しおかぜの里に無事に到着しました。しおかぜの里で昼食、周辺散策をして「空と海が出会う島」角島を満喫していました。当日はバイクでツーリングをする観光客が大勢訪れていました。

1年生は北高に集合し、土井ヶ浜人類学ミュージアム経由で土井ヶ浜海水浴場をめざして出発しました。ミュージアムは、デルタ株感染防止集中対策期間のため休館でしたが、周辺で昼食をとらせていただきました。土井ヶ浜海水浴場は、白い砂浜と青く澄んだ海の色が美しい海水浴場で、裸足になって波打ち際を歩く生徒や砂浜にオブジェを作る生徒など、夏から秋へと移行行く海を思い思いに楽しんでいました。

天候に恵まれ、秋の空気感を感じながら、無事に実施することができ、クラスや学年の親睦を深めることができました。



■ 交通安全運動街頭キャンペーンを実施しました。

9月28日(火)に、豊北町滝部「いなむら寿司」前のJR踏切付近で、交通安全運動街頭キャンペーンを実施しました。この取組は、秋の全国交通安全運動の一環として、小串警察署と小串交通安全協会滝部支部のご指導の下、地域住民への安全運転の呼び掛けを通して、交通安全意識の啓発を図るために行っています。

本校からは、交通委員、生徒会執行部役員、家庭クラブ委員、ボランティア委員など約40名の生徒が参加し、道を挟んで片側の歩道では、「思いやり みんなですすめる 交通安全」の標語を書いた画用紙を掲げて、朝の出勤途中のドライバーに安全運転を呼びかけました。

道の反対側では、小串警察署地域交通課及び小串交通安全協会滝部支部の通行車両誘導により停車していただいたドライバーの方に、家庭クラブ特製のマスコットと安全運転を呼びかけるチラシ等を手渡しました。

本校は、平成3年からこの街頭キャンペーンに参加しています。今後も交通事故のない日が続くよう活動していきたいと思っております。



■ 山科親方（元幕内豊響）が来校されました。

力強い押し相撲で“平成の猛牛”と呼ばれた響高校出身の大相撲元幕内豊響で6月に引退した山科親方が9月29日（水）の放課後に来校されました。前日の28日には、県庁を訪れ、村岡副知事に現役引退と年寄山科の襲名を報告されています。久しぶりの山口への帰省で、忙しいスケジュールの中ではありましたが、後輩のためならと、本校の相撲場で2時間以上相撲部の稽古をご覧になりました。稽古では3年生の申し合い稽古を中心に女子部員の稽古やトレーニングの様子などをご覧いただき、特に女子部員の激しい稽古に感激されていました。



また16年間の現役生活を振り返り境川親方への感謝の気持ちを語られていました。ほんとうの相撲道を教えていただき、すばらしい親方に出会えたことが幸せであったと言われていました。稽古の最後に部員一人ひとりに声をかけていただき、心に残るすばらしい時を過ごすことができました。

今週末、来週末に開催される第26回全日本女子相撲選手権大会、第105回高等学校相撲金沢大会に向けて部員たちは山科親方の激励を受け、気持ちを新たに稽古に励んでいます。

■ 人権に関する児童生徒作品 県最優秀賞 受賞

9月30日（木）に、山口県庁において令和3年度人権に関する児童生徒作品の表彰式が行われ、本校の中村葵さんが高校生部の部で最優秀を受賞しました。



県と県教育委員会が県内の小中学生と高校生を対象に募集した本年度の人権に関するポスター作品1519点の中から高校生の部で最優秀に選ばれました。ポスターは胸に抱いた赤ちゃんに寄り添う母親を描き「ひとつの命から広がる未来 大切にしよう」と記してあります。表彰式後に中村さんは「一つの小さな命でも可能性は無限大にあることを表現した。ポスターを見た人に人権を考えてもらえれば」と話しました。



構成やポスターは納得がいくまで練り直し、ポスターを見た人がどういったように人権を捉えてもらいたいかを考えながら試行錯誤したそうです。また製作期間は文化祭期間と重なっており、ファッションショーに出品する被服の制作や所属する総合文化部の作品の作成などと同時進行で行っていました。大変な思いをした分、受賞の喜びもひとしおだったことでしょう。

最優秀に選ばれた作品はポスターにして、JR駅などの公共施設や学校に掲示されます。また人権週間に合わせて12月6日から同10日まで県庁1階エントランスホールで展示されます。このポスターをご覧になった方々に中村さんの人権に対する思いが伝わればと思います。

■ 人権教育講演会を開催しました。

10月5日（火）の7限目に、国立ハンセン病資料館の学芸員 牛嶋渉さんによる人権教育講演会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためオンラインでの講演会となりました。リモートによる講演会は本校では初めてでしたが、1、3年生は体育館で、2年生は社会科教室でDVD視聴と講演がトラブルなく実施できました。演題は「ハンセン病問題を考える」。ハンセン病に関する知識、患者・元患者への偏見や差別について学ぶとともに、実例から新型コロナウイルス罹患者への差別問題についても考える講演でした。



最初に、ハンセン病が「らい菌」に感染することで起こる病気で、主に手足の末梢神経が麻痺すると、汗が出なくなったり、熱や痛みを感じなくなること。1943年にアメリカで「プロミン」という薬の有効性が判明し早期発見・治療を行えば、後遺症も残らず治る病気であることなど病気について説明がありました。

さらに、治療法が確立されて、ハンセン病が治る病気になり、国は療養所の入所者・社会復帰者におわびし、政策を改めたこと。それなのに、どうして偏見や差別がなくならなかったのか。ハンセン病に対する偏見や差別は私達のうちにある問題などではないか。さらには現在世界中で蔓延している新型コロナウイルス感染症の問題についても考えさせられる講演となりました。



最後に牛嶋さんが、「今日、ハンセン病について学習しましたので、皆さんがお互いにハンセン病について話をしていただけだけでも、この問題の解決につながっていくと思います。」と話されました。

その後に生徒会長の松野健伸君が「講演を聞くまではメディアでしかハンセン病のことを聞いたことがありませんでしたが、この講演でハンセン病がこれまでどういう扱いを受けてきたかが分かりました。このような知識を皆がつけてこの世の中から差別がなくなればよいと思いました。」と謝辞を述べ講演が終了しました。感染症についての差別問題を考える良い講演会となりました。